

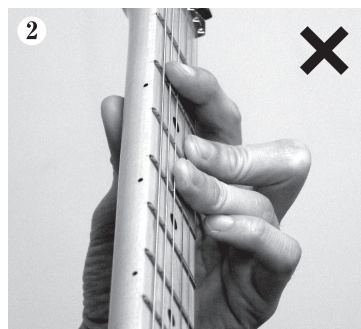
注意点1

指をしっかりと立てて、
1音1音をきれいに鳴らそう

アルペジオ（分散和音）とは、コードを分解して鳴らすこと。ここではバラードなどでよく使われるクリーン・トーンによるアルペジオに挑戦だ。アルペジオは、弦1本1本の音がしっかりと重ならないときれいに聴こえないので、隣接した弦に触れないように押弦することが大切だ。まずは1小節目のEm7⁽⁹⁾を押さえてみてほしい（写真①）。人差指などコードによって立てづらい指は、多少斜めになっても良いので、弦に触れている部分を支点にして指を浮かせるように押弦しよう。このような開放弦を絡めたコードは、通常のコードに比べて指を立てるため、弦に触れている部分が少ない。そのため、力み過ぎて押弦力が弱まったり、指が寝てしまったりする（写真②）ので注意しよう。



隣接弦に触れないように指を立てて押さえよう。ネック裏から親指でネック自体を押さえて押弦すると良い。

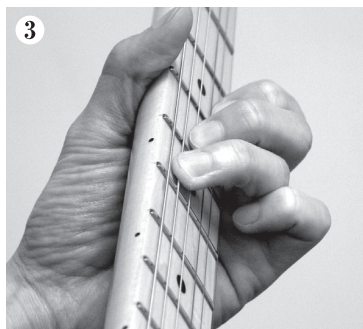


指が反ってしまつてはNG。関節を逆に反らす人は、弦を下に引く力が少し働いているはず。上に持ち上げるつもりで！

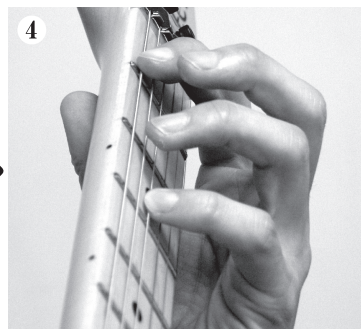
注意点2

アルペジオ＝メロディの
イメージで演奏しよう

このフレーズは、必ず譜面どおりに演奏してもらいたい。“そんなの当たり前だ！”と思った？しかしアルペジオは、コードがちゃんと押さえられていれば、多少適当にピッキングしても大丈夫なもの。要するに譜面とピッキング・パターンが違ってOKなのだ。これでは右手の練習にならないので、必ず譜面のピッキング表記で弾いてもらいたい。それとアルペジオは“メロディ”の1種なので、音を上手く繋げて歌わせることが大切だ。特に4小節目（写真③&④）は、大きくコードが変わるので、素早く移動しないと音が繋がらずメロディが崩れてしまう。コード・チェンジが瞬時にできない人は、まずはルート音（Dは5弦5フレット、F△7⁽⁹⁾は6弦1フレット）を鳴らし、その間に次のポジションを押さえると良い。



4小節目1～2拍目のD。3弦が開放弦のため、4弦4fを押さえる中指の腹が3弦に触れないように指を立てよう。



4小節目3～4拍目のF△7⁽⁹⁾。4弦3fを押さえる小指と6弦1fを押さえる人差指が、3弦に触れないように注意！

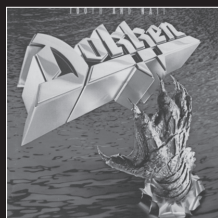
～コラム5～

地獄の戯れ言

バラードなどで頻繁に登場するクリーン・トーンのアルペジオ。シンプルでありながらもインパクトのあるアルペジオ・パターンを作れるということが、ギタリストのセンスにつながると言っても良いだろう。ドッケンの名バラード「アローン・アゲイン」のイントロで聴くことができる16分のノリのアルペジオには、ジョージ・リンチのセンスが光っている。また、ボン・ジョヴィの「ウォンテッド・デッド・オア・アライヴ」のアルペジオは、12弦ギターで演奏され、厚みのあるサウンドが特徴的。最後に TNT の「トゥナイト・アイム・フォーリング」のアルペジオは、ハードな曲の中でも際立つ旋律を持っているのだ。

プロに学べ！

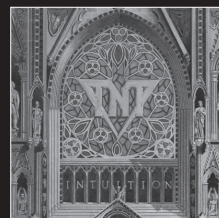
アルペジオ名プレイ紹介



ドッケン
「アローン・アゲイン」
from「トゥース・アンド・ネイル」



ボン・ジョヴィ
「ウォンテッド・デッド・オア・アライヴ」
from「ワイルド・イン・ザ・ストリート」



TNT
「トゥナイト・アイム・フォーリング」
from「インテュイション」